



教会だより

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10

Tel 055-237-2531 Fax 055-237-2507

<http://catholic-kofu.com>

発行 甲府カトリック教会広報委員会

神父のつぶやき

カトリック甲府・塩山教会

主任司祭 白木 信一

フランシスコ・ザビエルが日本にカトリックを伝えたのが1549年。その年から数えると、日本のカトリック教会の歴史も470年が経とうとしている。一方横浜教区は、東京教区から独立して1938年に正式に設立されたので、教区としてはまだ100年も経っていない。今年80年目になっているわけだが、その間第二バチカン公会議というカトリック教会の大きな刷新も体験している。その第二バチカン公会議後すでに60年以上が過ぎているが、横浜教区という教会はどれくらい成熟したのだろう。

人間の年齢からすると、50年も過ぎればいかげん大人になっているのだろうが、教会はそのようには成熟していかない。前教皇聖ヨハネ・パウロ二世が「まだ二千年しか経っていません」という表現をされたのを思い出す。み国の完成に向けた歩みはそのようなものなのだろう。しかし、それなりの成熟があるのだろうと思う。

横浜教区というカトリック教会は、現在、意識して子どもから大人へと成長しようとしていると理解している。これは横浜教区だけのことでなく、日本の他の教区においてもしかり。1984年に発表された「日本のカトリック教会の基本方針と優先課題」に見られることである。我々の横浜教区における「共同宣教司牧」という体制は、この動きの一つのありかたと言えよう。

一つの例を紹介しよう。こんなことがあった。長崎出身のある信徒の方が「ミサを捧む」という表現をされていた。その方が受けた信仰教育の背景が見えるようだ。ラテン語でミサが捧げられていた時代、言葉が分からないので、ただありがたくミサに出席していたのであれば、そのことを「ミサを捧む」と表現したとも想像される。しかし、我々が捧んでいるのは三位一体の神さまであって、決してミサを捧んでいるわけではない。

ミサは「ともに捧げるミサ」というタイトルが付くぐらいに、信徒が司祭と共に捧げる教会共同体の礼拝行為である。司祭と侍者が仕切りの向こう側（内陣）でミサを捧げているところに、見物するようなありかたで会衆が出席し、ミサが捧げられていたラテン語時代とは違うのである。教会のメンバーであるキリスト者全員が、ミサの中でそれぞれが奉仕の役割を担って、共に捧げているのである。

礼拝がどういうものかがしっかり理解されているなら、ミサの中でのある役割を担っている奉仕者には、それなりの心構えと準備が必要であることが分かるはずである。行き当たりばったりの、やっつけ仕事の奉仕にはならないはずである。こうしたミサについての理解、ミサへの参加の意識や仕方に、子どもから大人へと成熟していく姿が確認できる。

ミサのことだけでなく、教会の諸活動のうちに成熟していく姿を確認しながら、神の国の完成に向かってしっかりと歩んで行きたいものだ。

A matter of a Father

Fr. Shiraki Shinichi : Parish priest of Kofu and Enzan Catholic Church

"The year of faith" which began on October 11 2012 and ended on November 24 2013, the Solemnity of Christ, was declared on the 50th anniversary of the Second Vatican Council. It was indicated as well that the opening day was the 20th anniversary of the promulgation of the "Catechism of the Catholic Church".

Pope Benedict XVI determined to open the year of faith "because of a profound crisis of faith that has affected many people"(cf. 2nd paragraph in Apostolic Letter PORTA FIDEI). The Supreme Pontiff stated in the same Apostolic Letter that "the Year of Faith will have to see a concerted effort to rediscover and study the fundamental content of the faith that receives its systematic and organic synthesis in the Catechism of the Catholic Church." (cf. 11th paragraph in the same letter), and this showed us that we need to spend this special year with special attention.

Pope clearly showed his hope by writing "this Year to arouse in every believer the aspiration to profess the faith in fullness and with renewed conviction, with confidence and hope"(cf. 11th paragraph in the same letter). Also he stated that "evidently, knowledge of the content of faith is essential for giving one's own assent, that is to say for adhering fully with intellect and will to what the Church proposes."(cf. 10th paragraph in the same letter).

By deepening correct knowledge of faith, "we will need to keep our gaze fixed upon Jesus Christ, the "pioneer and perfecter of our faith" (Heb 12:2): in him, all the anguish and all the longing of the human heart finds fulfillment." and Pope pointed out that we would be able to establish an intimate relationship with our Lord Jesus Christ only by doing so. Pope told us "Faith without charity bears no fruit"(cf. 14th paragraph in the same letter). We should take it as his encouragement for us to keep on practicing the commandment of Jesus "Love each other in the same way I have loved you."

As far as I know, in the year of faith, Kofu Catholic Church began an original action of "KODOMO-SUPPORT YAMANASHI" which linked to our current social welfare activity. Therefore I believe you, the members of Kofu church, are still remembering the content of Pope Benedict XVI's Apostolic Letter and what he appealed in it. Why don't we bring it to our mind once again? I suggest this because I believe what was recommended to us in the Pope's letter at that time is still important.

For not being a faithful of self-taught manner, we need to keep this in mind "the knowledge of the content of faith is essential" (cf. 10th paragraph in the same letter), and also we need to take this seriously "we will need to keep our gaze fixed upon Jesus Christ, the "pioneer and perfecter of our faith" (cf. 13th paragraph in the same letter). Let's keep on our life on earth treasuring these teachings. If so, someday we might be able to improve the situation of "a profound crisis of faith that has affected many people" which Pope Benedict XVI once stated.

お知らせ(8月)

1. 帰天

この度 次のお二人の姉妹が神さまに召されました。

いつくしみ深い神さまがお二人に永遠の安息と、悲しみに暮れるご遺族の皆さまに慰めと希望をお与えくださいますようお願いいたします。

(1)小さきテレジア・井出サチ子様(享年86歳)(峡南ブロック)

7月24日にご逝去され、ご遺族のご意向で家族葬で7月26日にご葬儀が執り行われました。

(2)マリア・原田寿々代様(享年78歳)(峡西ブロック)

7月28日 ご療養先の病院でご逝去され、当教会で7月31日に葬儀ミサが執り行われました。

お元気なころに美しい千羽鶴を折り、平和のためにお祈りしていたお姿が懐かしく思い浮かびます。

2. 転入

ヨゼフ・岩永唯男様は、テレジア・さくら様、アシジのフランシスコ陸玖冬様とともに、仙台教区宮古教会より当教会に転入されました。

お住まいは、富士川町です。(所属ブロック: 峡南ブロック)

新しい地でのご生活に神さまの豊かな祝福をお祈り申し上げます。

どうぞよろしくお願いたします。

3. 聖母被昇天のミサ

8月15日(水)10時30分から聖堂で行います。

当日は、駐車場が教会庭のみになりますので、ご体調や交通の便等の理由で自家用車以外に教会に来られない方への配慮から一般の方の自家用車乗り入れをご遠慮下さいますようお願い申し上げます。

4. 8月の堅信の準備の勉強会

8月の日曜日 14時からの堅信の準備の勉強会は、サントルチア講堂で5日、19日、26日に行います。

5. 力障連横浜大会参加申込者を教えてください。

10月20日・21日開催される力障連横浜大会の参加申し込みは8月31日までにそれぞれ参加希望者個人でお申込みいただくことになっておりますが、地域福祉委員会としまして参加申込者を把握したいと思っておりますのでお手数でもセンター掲示板の「参加申込者名簿」にお名前等ご記入をお願いいたします。

6. 8月の早朝ミサ等

8月の早朝ミサ（6時50分）は、毎週火曜日、金曜日、土曜日に捧げられます。
なお、8月3日は9時30分より初金のミサが行われ、その後、センターホールで聖書を読む会を行います。

また、7日(火)、10日(金)、11日(土)、28日(火)は都合によりお休みいたします。

7. 8月の教会学校・中高生会

(1)定例の教会学校・中高生会はお休みします。

(2)DVD鑑賞会

8月17日(金)13時30分より、サンタルチア講堂でDVDの鑑賞会を行います。

教会学校・中高生会の保護者などのご参加も歓迎いたします。

鑑賞するDVD アニメ「モーゼの十戒」

8. 敬老の集い

今年の敬老の集いは、9月25日(日)ミサの後、サンタルチア講堂で行います。
ご招待する信徒の方（9月25日現在、75歳以上）には、8月15日頃までに招待状（往復はがき）を郵送する予定です。

（申し込みの締め切りは、8月31日と致しますので、お手数でもご出欠の返信用はがきを期日までにご投函下さいますようお願い申し上げます。）

9. ソキオーの会

共同祈願を考えるソキオーの会は、11月4日の堅信式が終わるまで、堅信式の勉強会がありますのでお休み致します。

10. 典礼委員会

8月18日(土)9時から、センター・ホールで開催します。

11. 青少年育成委員会

8月はお休みします。

12. 女性会

8月はお休みします。

13. 地域福祉委員会

8月19日(日)ミサ後、サンタルチア講堂で開催します。

14. きずな

8月は、お休みします。

15. ピーターラビット

8月はお休みします。

なお9月11日(火)のピーターラビットにつきましては
センター掲示板に内容等を掲示いたしますのでご覧ください。

16. 「いのちへのまなざし」(日本カトリック司教団)の読書会(勉強会)

「21世紀の司教団メッセージ」として発行された「いのちへのまなざし」の
読書会(勉強会)8月14日(火)16時よりセンターホールで行います。

(問い合わせ先:南ブロック 田村照夫さん)

17. 西日本豪雨被災者への祈りと献金へのご協力のお礼

7月15日(日)及び7月22日(日)の西日本豪雨被災者への方のお祈りと
献金へのご協力ありがとうございました。

献金額は 63,598円で、【カリタスジャパン西日本豪雨災害緊急支援募金】へ
お贈り致しました。

引き続き、亡くなられた200名を超える方、及びご遺族、酷暑の中で困難な生活を
されている方々のためにお祈りをお願いいたします。

(地域福祉委員会)

18. 山梨県教会一致懇談会

「日本の戦争をおぼえ平和を祈る集会」

〔日時〕8月12日(日)14時30分~16時30分

〔場所〕日本キリスト教団 南甲府教会

〔講演〕 「東京大空襲を生きのびて」

(講師 今村清子氏)

(無料・事前申込不要)

19. 宮澤農園よりのお知らせ

いつもお野菜などをお買い求め頂きありがとうございます。

宮澤農園の売上金より、7月7日に行われましたカリタス石巻ベースの「七夕まつり」に飲み物とお菓子を購入してお贈り致しました。

今後も皆様のご協力により支援を続けて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。（「七夕まつり」の様子は、石巻ベースのブログをご覧ください。）

20. 関係団体などからのお知らせ

(1)NPO 法人やまなしライフサポート

・夜間パトロール

8月25日(土)22時より甲府カトリック教会に集合して甲府市内等の夜間パトロールを行います。

・炊き出し

8月の炊き出しは、通常通り行います。14時から調理を始めますのでよろしくお願い致します。

(連絡先)080-5501-8191 事務局長 芦沢信)

(2)NPO 法人こどもサポートやまなし

①「夏祭り」

8月18日(土)17時～19時まで、甲府カトリック教会サンタ・ルチア講堂及び教会庭で行います。

焼きそば、バーベキュー、金魚すくい、すいか割り等楽しいコーナーが沢山予定されております。

夏休みの夕暮れのひと時を、地域の子どもさんやご家族の皆さんと過ごし交わりを深めませんか ご来場をお待ちしております。

②運営委員会

8月21日(火)18時30分より、甲府カトリック教会センターホールで行います。

③学習会

今月の学習会は、8月12日(日)と8月26日(日)に13時30分より山梨カトリック福祉センター(旧山城教会)で開催いたします。

学習会に参加したくても交通手段がなく来られないお子さんのために送迎ボランティアを募集しております。(ご協力いただける方は、中央ブロック池田まゆみさんまでお願いいたします。)

典礼の息吹

福音朗読

前回に続き、新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所について、確認したいと思います。

134 司祭は朗読台で福音を開き、手を合わせ、「主は皆さんとともに」と唱える。会衆は「また司祭とともに」と答える。それから、「〇〇〇による福音」と唱え、親指で福音書と自分の額、口、胸に十字架のしるしをする。会衆は「主に栄光」と応唱する。(新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所)

会衆に対する指示はこれまでの「ミサ総則」には明記されていませんでしたが、今後は「主に栄光」と唱えながら、会衆も司祭と同じように自分の額、口、胸に十字架のしるしをします。

この時の十字架のしるしは、親指で縦・横と小さくしるしをします。

これは、『ミサにおける福音朗読は、イエスのことばを聴く時ですから、「額」考えにおいて、「口」言葉において、「胸」心において、イエスに仕えて生きたいと願う私たちの心の姿勢を示す「しるし」なのです。』

(信徒のQ&A—甲子園教会より)

聖書のことばを理解し、人に正しく伝え、良く理解できるように、という意味を込めて十字を切ります。

ところで、私たちはなぜ十字を切るのでしょうか。それは、信仰が三位一体の神（父と子と聖霊）へのものであり、イエスの十字架にこそ人類の救いと希望があるという信条を示しています。

教皇ベネディクト 16 世は、「十字架のしるしはキリスト者の祈りに欠かせないものであり、十字架のしるしをすることは、わたしたちのために死なれ、復活された方を公に、目に見える形で宣言すること」、とその重要性を強調なさいました。

日頃、何気なく、当たり前のように十字架のしるしを行うわたしたちですが、毎回十字を切るたびに、これらのことを思い起こし、私たちひとりひとりの信仰の証しとして、心を込めて、十字を切ることにいたしましょう。

✠ 父と子と聖霊によって、アーメン

こんにちは、こぴっとプロジェクトです

(山梨地区東北被災地支援プロジェクト)

○ボランティア行ってきます

- 担 当 : 葺崎
- 訪問地 : カリタス石巻ベース
- 日 程 : 未定
- 参加者 : 未定

○寄付について

6月17日(日)に行われたミニバザーの収益金から、こぴっとに寄付がありました。

貴重な収益金からの寄付、ありがとうございました。

- 寄付金 9,810円

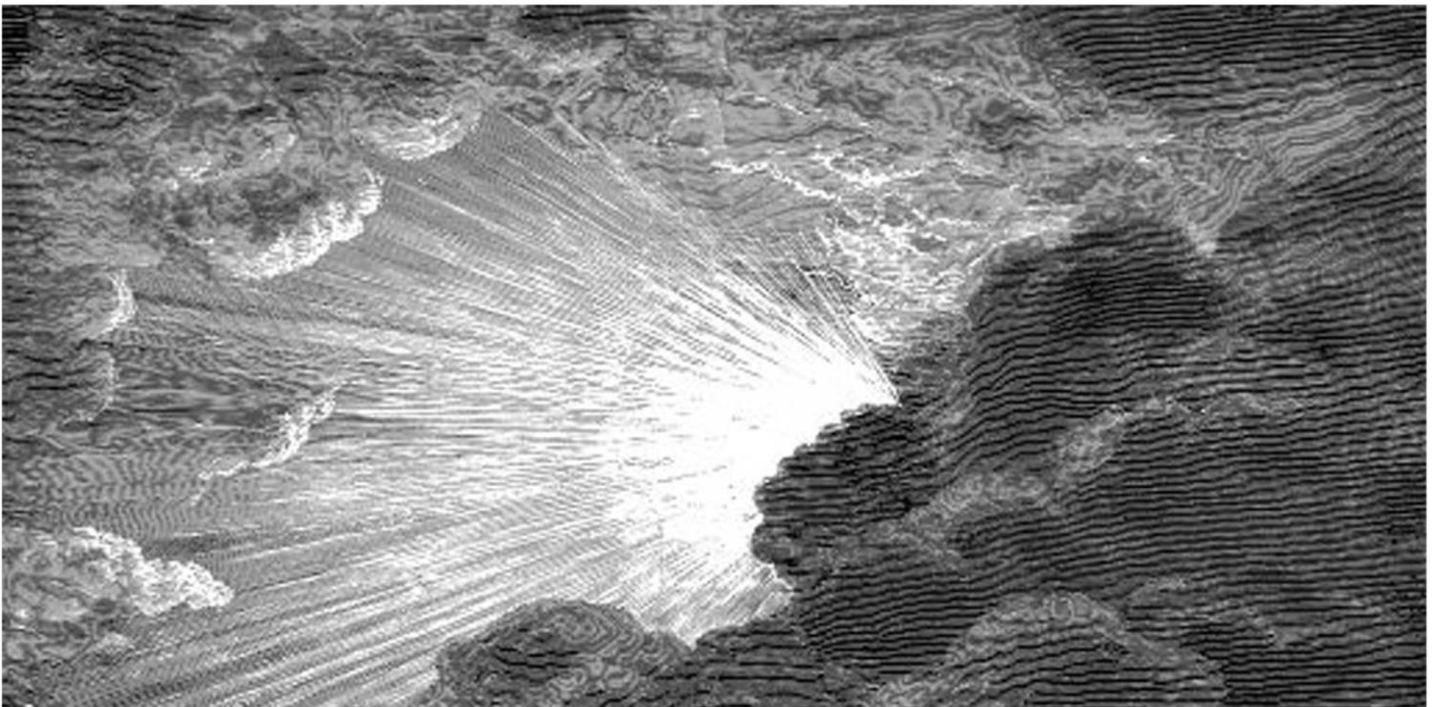


自由

私は 自由
母と語らい
友と歌い
飯を食い 酒を呑む
そして 神に感謝と
いのる

愛をくれたもの

思いを揺るがす 恋があった
自由を揺さぶる 事態も起こる
劃策・謀略・陰謀・裏切り
世の中は いつも神を試す



失意から希望へ

歩きを
失い
書くこと 投げることを
失い
叫びを 失う
目を閉じると
心が平安になれ得るを得た

祈り

どんなに
悲しみや苦しみがあっても
明日から うれしくなっていく
そう信じて
神様は ずっと一緒に
隣りにいるよ

✠ 今月の典礼奉仕表（8月） ✠

日	第一朗読	第二朗読	共同祈願奉仕	聖堂案内
8月 5日	デラクルズ・エイシャ	ベルティス・だいき	大木	池田
12日	御荘	山田	宮田	武井コーラゾン
19日	芦沢	大井	宮澤	御荘
26日	池田	志村	今津	大井
9月 2日	風間ひろき	今井はじめ	志村	木村

✠ 今月のこよみ（教会暦、行事等） ✠

- ・主日のミサ 日曜日10:30～、土曜日18:00～イエスのカリタス甲府修道院（ヨゼフ寮）
- ・平日のミサ 火・金・土曜日06:50～（但し初金のミサ 9:30～）

8月	5日（日）年間第18主日	10:30 ～ ミサ	
		15:00 ～	スペイン語ミサ（Español）
	12日（日）年間第19主日	10:30 ～ ミサ	
		19:00 ～	ポルトガル語ミサ（Português）
	15日（水）聖母の被昇天	10:30 ～ ミサ	
	19日（日）年間第20主日	10:30 ～ ミサ	
		12:30 ～	韓国語ミサ（한글）
	26日（日）年間第21主日	10:30 ～ ミサ	
		15:00 ～	英語ミサ（English）
9月	2日（日）年間第22主日	10:30 ～ ミサ（ミサ後、女性会）	
		15:00 ～	スペイン語ミサ（Español）

※ 8月7日（火）・10日（金）11日（土）21日（火）28日（火）の早朝ミサはお休みとなります。

清掃当番表（8月、9月 各ブロック輪番制）

8月 5日（日）ペルーグループ	8月 26日（日）フィリピングループ
8月 11日（土）山城・峡南ブロック	9月 1日（土）中央・北ブロック
8月 12日（日）ブラジルグループ	9月 2日（日）ペルーグループ
8月 19日（日）韓国グループ	9月 8日（土）西・峡西ブロック